

市政専門図書館ニュースレター No. 3

「後藤新平展」の開催準備の完了を待って

東京市政調査会理事長 西尾 勝

私の都市行政研究は市政専門図書館から始まった。恩師の辻清明先生の研究室に伺い、助手志願をしてみたところ、夏期休暇中に論文を書いてみなさいと言われ、ニューヨーク市政と市政改革運動の関係について調べてみようと考え、市政専門図書館に日参することになったのである。次に市政専門図書館を利用したのは、内務省の初代都市計画課長池田宏の起草になる都市計画法案について審議した都市計画委員会会議録を閲読するためであった。

若き日の私と同様に、外部の研究者や霞が関の各省官僚にとっては、財団法人東京市政調査会そのものよりも、その市政専門図書館の方がはるかに馴染みの深い存在だったのではないかと思われる。そして現在でもなお、この市政専門図書館の図書館サービスこそが東京市政調査会の公益事業の中核をなしている。東京都が都立図書館に司書を新規採用しなくなってからすでに久しいが、わが市政専門図書館の職員はその全員が司書資格を有している。この貴重な人的資源を最大限に活かして図書館サービスの向上と図書館利用者の拡大を図るために、まず複写サービスを導入し、ニュースレターを発刊し、関係方面にポスターの掲示もお願いした。さらにOPAC（蔵書検索）を開始し、新年度から複写の郵送サービスも始めることにしている。

しかし、改めて思うに、専門図書館の司書に期待されている究極のサービスは文献情報の調査・整理・編纂と高度のレファレンス・サービスの提供にあるのではないか。ただ本年は、本会の創立者後藤新平の生誕百五十年にあたっていて、これを記念する東京都と本会の共催事業として7月24日から9月9日まで江戸東京博物館で後藤新平展を開催するため、市政専門図書館の司書はその展示物の選定や図録の作成に全力を投入している。そこで、この「後藤新平展」の開催準備が完了するのを待って、文献情報の調査・整理・編纂とレファレンス・サービスの提供の今後のあり方について真剣に検討していきたい。



図書館周辺の風景

東京都立日比谷公園 ～かもめの広場～



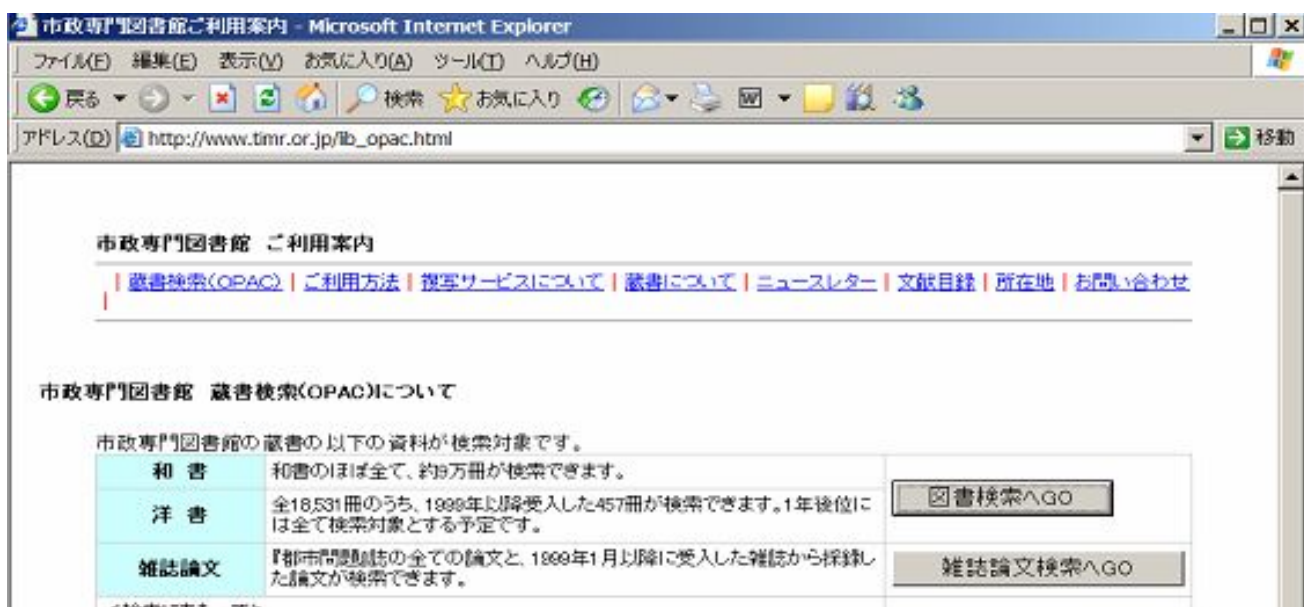
かもめの広場は日比谷公園の南西角地に1986年4月に開園した。以前ここは家庭裁判所であったが、隣接する道路の拡幅によって減少を続けた公園面積は僅かながら増加した。広場の一部は都道府県からの献木による郷土の森として整備されている。写真は大分県の木「豊後梅」である。暖冬を反映してか2月20日で満開に近い状態である。カメラを向けていて偶然見つけた小鳥はメジロかと思われる。梅の花密を好み、比較的警戒心も緩く市街地の庭木や街路樹に寄ってくるそうである。メジロは大分県のシンボル鳥である。

【図書館蔵書検索システム(OPAC)の紹介】

市政専門図書館では平成18年8月から、インターネット上での蔵書検索が可能となりました。今回はニューズレターの紙面を借り、本館の新しいサービスである蔵書検索システム(OPAC)の利用について簡単にご説明します。

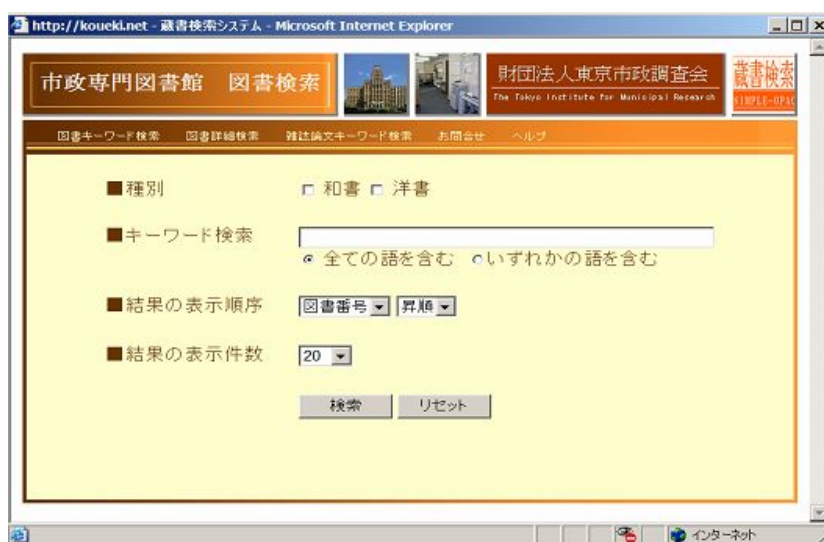
市政専門図書館 OPAC の検索対象資料は、和書のほぼ全て約9万冊と、洋書の1999年以降受入した457冊、『都市問題』誌の全ての論文と、1999年1月以降に受入した雑誌から採録した論文です。なお、本年度中には洋書の全てを検索対象とする予定です。

検索を行うにはまず、東京市政調査会のホームページ (<http://www.timr.or.jp>) にアクセスして、「市政専門図書館蔵書検索(OPAC)について」をクリックして開きます。



和書・洋書を検索するときは「図書検索へ GO」を、雑誌論文を検索するときは「雑誌論文検索へ GO」をクリックします。図書、雑誌論文ともに最初は「キーワード検索」画面が立ち上がります。

「キーワード検索」の場合、入力した検索語が書名、著者名、内容細目など全書誌項目のいずれかに含まれていればヒットします。「地方自治」や「地方分権」など、特定の主題のもとにどのような資料があるかを探するときなどに便利です。ただし、入力した検索語によっては膨大な数の資料がヒットしてしまうので注意してください。複数の検索語を入力して「全ての語を含む」を選んで検索すれば、このような事態は回避できます。

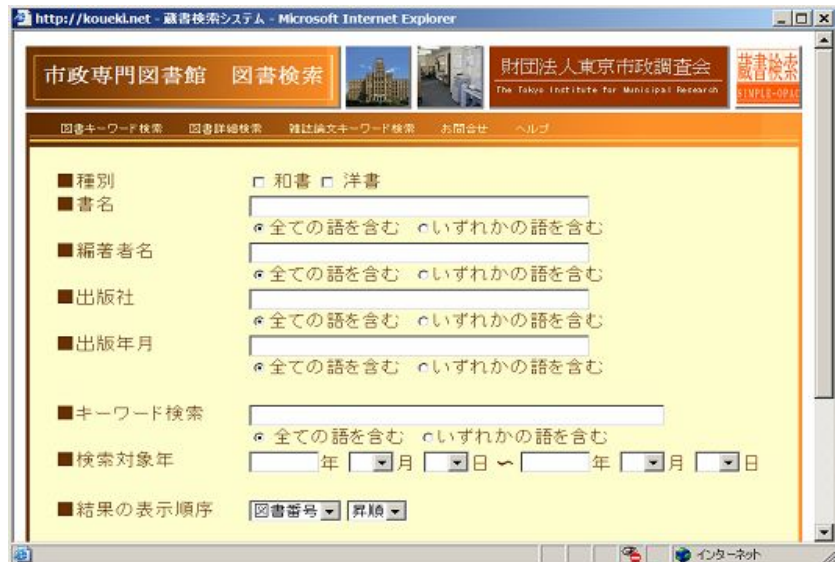


「詳細検索」は書名や著者名など、特定の項目に対して検索をかける方法です。探している資料の書名や著者などが分かっているときに便利です。また、キーワードと「検索対象年」の項目を併用すると、一定期間内に発行された特定主題の資料を網羅することも可能です。なお、複数の項目に検索語を入力すると初期値は「AND 検索」(全ての検索語を含むものがヒットする)です。「OR 検索」(いずれかの検索語

を含むものがヒットする)にするにはご自分でチェックを入れてください。

ほかに、雑誌論文の詳細検索画面では、図書にない項目として「特集・連載」「雑誌名」「巻号」「都市名」があります。「都市名」は論文中で取り上げられた件名としての都市名です。タイトルや著者には表れない都市名を入れてあります。

システムの都合上、図書と雑誌論文の共通の検索画面でない点は不便をお掛けしますが、この市政専門図書館 OPAC が多少なりとも皆さまの検索やご利用の手助けになれば幸いです。



【灰色文献紹介】(蔵書中から書店にない本や入手困難な本を紹介します)

河野 義克著 河野義克遺稿集編纂委員会編

「国会とともに—河野義克遺稿集」

(2005年9月 407p 22cm 非売品 図書番号:OJ-2449)



財団法人東京市政調査会(以下、本会)元理事長・河野義克は、1913(大正2)年7月、田澤義鋪・ヨウ(洋子)の次男として、父の任地である静岡県安倍郡安東村(現在静岡市)に生まれた。田澤は大正期、昭和初期の政治家(貴族院議員)、思想家、教育家であった。とくに、戦前における青年団教育に尽力した活動が知られて、「青年団の父」と称されている。1934(昭和9)年、21歳のときに、会計検査院長・河野秀男の養子となった。田澤家と河野家とは父親同士がかねてから親交があってそれが縁となった。

河野は、実父と同じく東京帝国大学法学部政治学科に入学する。在学中に高等文官試験行政科に合格している。大学を卒業後、内務省に採用となり4月に岐阜県属として赴任した。翌年に臨時召集によって軍籍に入り、満州大連で歩兵隊に所属した。1940(昭和15)年、九死に一生をえながら帰還し、岐阜県庁に戻ったのち、すぐに福井県地方課長として赴任した。翌年には地方勤務のない貴族院事務官として転任することとなった。転任となった大きな理由は、上司のはからいであった。せっかく子どものいない河野家の養子となりながら、一人寂しくしている養母のことを気遣ってくれたからである。

爾来、三十数年にわたって国会職員として、参議院の運営や選挙制度の改革などに心血をそそぐこととなった。特に、1956(昭和31)年、教育二法案の審議をめぐって、議会史上、議長命で参議院本会議場に警察官をいれるという非常事態にさいして事務次長として自らも暴行を受けながら、起死回生の秘策を練って法案を成立させたことはあまりにも有名である。河野はもっぱら弁舌にその真価や才能を発揮した人物であった。国会では議院運営委員会および各種委員会において、理路整然とした説明はおおくの議員を納得させた。また、講演や挨拶は、漢語や警句をまじえた格調高いものであった。本書は、夫人が河野の書斎を整理中に多くの原稿や資料類を見つけ、日頃から懇意にされていた元国立国会図書館長や現国会図書館長などに相談し、それら関係者からなる河野義克遺稿集編纂委員会によって整理し刊行されたものである。本書につけられたタイトルは、戦前から戦後の混乱期に議会制

民主主義の発展と参議院の独立性のために尽力されたその生涯に照らしてシンプルに付けたものである。この遺稿集では第一章 国会における発言、第二章 講演・挨拶といった河野の語りを中心に、公私にわたる多彩な方々とのかかわりのなかで論評や回想記等で構成されている。

国立国会図書館長就任以降、長年にわたって、全国治水砂防協会、徳川黎明会、博報児童教育振興会、静嘉堂、石川文化事業財団等の評議員、理事となっている。国立国会図書館長を退任後、1970(昭和45)年、本会理事長に就任した。本会においては、自主共同調査研究、東京都およびその他の団体からの受託調査、海外の大都市との国際比較調査等の多くの実績を残した。本会のモデルともなったニューヨーク行政研究所との連携協力を結び、共同研究をも実現させている。29年の長きにわたって本会の安定した経営基盤を持続させ、1999(平成11)年に理事長を退任した。

2001(平成13)年4月、東京カテドラル聖マリア大聖堂にて洗礼を受けた。洗礼名は、フランシスコ・ザビエル河野義克。2003(平成15)年、長年かよい慣れた懐かしい日比谷の地において催された卒寿のお祝いの席上で倒れ緊急入院したが、そのままご家族に見守られながら静かにその生涯を閉じた。

【雑誌の紹介】

『都市美』

都市美協会発行。本館では第4号(昭和8(1933)年3月)～第14号(昭和11(1936)年3月)、第16号(昭和11年7月)～第18号(同12月)を所蔵。大正14(1925)年10月、都市美協会は渡辺鉄蔵らを発起人として設立された。当初は、都市美研究会という名称であったが、研究機関から実践機関となるために翌年改称した。初代会長を阪谷芳郎、副会長を本多静六らが務めた。協会は、戦後社団法人として一旦は再発足したが、その後活動は中止した。協会の機関誌である「都市美」は、昭和6(1931)年4月に創刊され、少なくとも第38号(昭和17(1942)年1月)までは刊行されたと思われる。(西村 幸夫編著『都市美 都市景観施策の源流とその展開』学芸出版社発行、2005年等の資料による)本館所蔵の殆どの号には“都市醜排撃号”のように特集名が付けられており、テーマに沿った会員からの投稿論文や座談会、各界著名人からの意見集等の他、東京の街路、建築、都市美・都市醜といった主題で懸賞募集された写真の入選作が誌面を飾っている。また協会主催事業である植樹祭(都市の緑化運動と市民の愛樹思想を涵養するもの)、道路祭(道路舗装普及の礼讃と交通道德、道路愛護思想を涵養するもの)、建築祭(建築美の増進や建築文化の普及を目的とするもの)などの様子を伝える記事も多数掲載されている。『都市美』を含め、都市美協会関連の資料は本館でもあまり多くを所蔵していないが、図書では『建築の東京』(1935年)【図書番号 OBX-0017】など、雑誌では『区画整理』『建築と社会』『大大阪』『都市問題』に、主に全国都市美協議会関連の記事がある。また第4回全国都市問題会議総会の研究報告(第1議題乙編 都市環境の改善 (1934年)【図書番号 OA-0176】)に協会の活動概要や会員による論文が収録されている。

発行:(財)東京市政調査会 市政専門図書館

100-0012 千代田区日比谷公園 1-3 市政会館1F Tel:03-3591-1264 Fax:03-3591-1278 <http://www.timr.or.jp/>